

評価報告を受けて

教育事業活動のための学校施設について、校舎等の耐震補強、災害対策施設等も整備され、財政の支出もあったが、全体としての財務状況も順調に推移している。教育環境のさらなる整備を図り、施設のユニバーサルデザイン化等、具体的な成果をあげている。

定員210名の本校に、今年度は219名の新入生を迎えることが出来た。周囲から高い評価を受けることが出来るよう、教職員一丸となって学校の魅力づくりに努力をした結果としての、平成30年度入学生の増加であったと受けとめている。29年度の学校評価も28年度よりさらに好評価となる項目があった。生徒たちが夢に向かうことを、職員はしっかりと支えながら、教育活動に取り組んだものと思う。

今年度自己評価が上がった項目は、「文武両道」と「人権同和教育の推進」であった。部活動が盛んな本校であるが、学習を疎かにすることなく、生徒達が取り組んでいくよう、しっかりと指導がなされるべきであると考え。普通科の今後のあり方として、これまで多様な進路を希望する生徒達に、個別に対応してきたことを見直し、大学進学を一層目指すための検討をすることで、本格的に「文武両道」を実現したいと考える。新しく始まる大学入試に対応することが出来る学力を育成するために、31年度入学生より、普通科の中に「特進コース」を設ける。創造的に考え、課題解決力を身につけた生徒を育てる。

「人権同和教育の推進」では、教職員一人ひとりの人権感覚を磨き、全ての生徒の人格に対して敬意と愛情を持って向き合っていくことを期待する。教職員自らの行動は、全ての生徒達の手本になるよう、また、いじめの芽を発見したら早急に対応していくよう努力をしていかねばならない。

今後ますます、充実した学校づくりに、職員からの新しい提案を期待するとともに、働き方改革にも着目し、職場環境整備も図っていきたい。創立100周年に向けて、玉名女子高等学校はさらなる進化を続けたい。

評議員、とりわけ学校評価委員会のメンバーとしてご意見を頂きました皆様には、本校の学校教育に日頃から関心を持ってご協力いただきました、誠にありがとうございます。お聞かせいただきました貴重なご意見は、今後の学校教育にしっかりと活かして参ります。今後も、機会あるごとに学校行事等への参観をご案内させていただきますので、よろしくご意見申し上げます。

平成30年7月1日
学校法人 玉名白梅学園
理事長 小篠 健一